

精神保健福祉援助技術各論Ⅱ

担当教員 茶屋道 拓哉

配当年次 4年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1 地域リハビリテーションの構成と社会資源の活用及びケアマネジメント、コミュニティワーク（地域相談援助に係る組織、団体、関係機関及び専門職との連携についての理解を含む）の実際について基礎的知識を備える。
- 2 地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的な支援（地域精神保健福祉活動）の意義と展開について説明できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方①地域ネットワーク
2	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方②アウトリーチ
3	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方③生活支援事業と訪問援助
4	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方④セルフヘルプグループ・家族会
5	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方⑤精神保健福祉ボランティアの育成と活用
6	精神障害者のケアマネジメント①ケアマネジメントの原則
7	精神障害者のケアマネジメント②ケアマネジメントの意義と方法
8	精神障害者のケアマネジメント③ケアマネジメントの展開過程
9	精神障害者のケアマネジメント④チームケアとチームワーク
10	精神障害者のケアマネジメント⑤事例による精神障害者ケアマネジメントの検討
11	地域を基盤にした支援とネットワーキング①その概念と基本的性格
12	地域を基盤にした支援とネットワーキング②地域アセスメント・BSC・SWOT分析
13	地域を基盤にした支援とネットワーキング③地域を基盤にした支援の具体的展開
14	地域を基盤にした支援とネットワーキング④事例による地域を基盤にした支援の検討
15	地域生活を支援する包括的支援の意義と展開

【履修上の注意事項】

- 1 必ず講義ノートを作成すること。また、配布するプリントをファイル化し毎回持参することが必要である（配布資料は何回か使用する可能性がある）。
- 2 授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと。
- 3 授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること。

【評価方法】

- 1 試験（期末レポート）による評価（70%）
- 2 授業中のレスポンスやミニレポート（30%）

【テキスト】

日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座 5 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ（第2版）』中央法規

【参考文献】

C・A・ラップ, R・J・ゴスチャ著, 田中英樹監訳『ストレングスマodel 精神障害者のためのケースマネジメント 第2版』金剛出版